

## 第3章 シンボル事業

観光施策を推進するうえで、広範な事業を有機的に結び付けていくためには、初期段階における先導的なプロジェクト展開が有効です。

そこで、観光振興のための「シンボル事業」として、以下の5つを優先的かつ分野横断的に実施します。

### すみだ観光シンボル事業

- 1 すみだ観光プロモーション
- 2 Hokusai Dori
- 3 タワービュー通り
- 4 水都すみだ
- 5 **i** プロジェクト

### 1 すみだ観光プロモーション

墨田区における観光振興の目標は「国際観光都市すみだ」をつくることです。

この目標を実現するためには、観光推進のための「マーケティング戦略」を定めることが必要です。それによって観光に関連するさまざまな活動を「総合力」として発揮できれば、目標達成に向け着実な成果が期待できます。

この観光マーケティング戦略の一環として展開する、広報・伝達を中心とした活動が「すみだ観光プロモーション」です。すみだ観光プロモーションは、墨田区文化観光協会が中心となって実施します。

#### (1) プロモーションツールの開発・充実

観光プロモーションを進めるためのさまざまなツールを開発します。

- 〔ツール例〕 プロモーションビデオ（日本語、英語など）
- 各種マップ
- オリジナルグッズ（記念品、土産品）の開発
- ホームページの多言語化

#### (2) 国内外向けの広報活動

シティセールスを含めて、国内・海外向けの観光キャンペーンを行います。タワー建設主体と連携した広報活動を内外に向けて展開します。

### ( 3 ) イベントの充実・新規開発の支援

季節感のあるイベントを中心にラインナップの充実を図ります。  
地域のアイデアを活かした新規イベントの開発を支援します。

### ( 4 ) 各種企画ツアーの充実

地域の観光特性を活かし、ターゲットのニーズを捉えた観光ツアーを企画  
します。

#### 〔新タワーオープンに向けた観光プロモーションのイメージ〕

平成 20 ( 2008 ) 年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・プロモーション実施計画の策定</li><li>・観光プロモーション展開に関するタワー建設主体との協議</li></ul>
平成 21 ( 2009 ) 年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・観光プロモーションを開始</li><li>・タワーPR キャンペーン ( 国内向け ) を本格化</li><li>・観光プロモーションにあたる民間ネットワークの確立</li><li>・各種プロモーション・ツールの作成を開始</li></ul>
平成 22 ( 2010 ) 年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・タワーPR キャンペーン ( 海外向け ) を本格化</li><li>・プレイベントの実施</li></ul>
平成 23 ( 2011 ) 年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・タワーイヤーイベントの推進</li><li>・総合案内機能の拡充</li></ul>

## 2 Hokusai Dori (北斎通り)

北斎通りは、両国エリアと錦糸町エリアという2つの重要な観光拠点エリアを結ぶ「国際観光都市すみだ」の重要な周遊軸です。

この通りは、かつて南割下水通りと呼ばれ、天才浮世絵師・葛飾北斎はここで生まれたとの記録があることから平成11(1999)年に「北斎通り」と名づけられました。この北斎通り周辺に、北斎作品を中心とした美術館「墨田区北斎館」(仮称)が、タワー完成と同時期に建設されます。



そこで、北斎通り一帯を北斎の魅力や多彩な江戸文化を楽しむことができる街、江戸の風情が感じられる品格と賑わいのある街をめざして、地元住民、企業、各種活動団体と行政が協働で街づくりを進めます。そして「Hokusai Dori」は、国際的にも認知されるような観光のシンボルストリートにしていきます。

### (1) 墨田区北斎館(仮称)

墨田区亀沢で生まれた北斎は、平成11(1999)年にアメリカの『ライフ』誌が行ったアンケート「この1000年間でもっとも偉大な業績を残した100人」に日本人としてただ一人選ばれています。墨田区の重要な財産ともいえるべき北斎の作品を中心とした美術館、墨田区北斎館(仮称)がタワー完成と同時期に建設されます。

北斎館は「地域へ、世界へと情報を発信する北斎研究の拠点となる美術館」を基本理念とし、「北斎に対する国際的な認識の高さに応えられる調査研究を重視し、研究の成果に基づく新しい北斎像を紹介する魅力的で集客力のある美術館」をめざしています。また、区民が親しみを感じ、世界的に著名な北斎にふさわしい格調を併せ持つ、まちの新しいランドマークとなる建物として検討が行われています。

北斎館を北斎通りにおけるシンボル施設とし、「北斎」・「江戸時代のすみだ」をキーワードとした北斎通りの核となる施設として活用をはかります。

### (2) 北斎通りまちづくり

北斎をテーマにしたまちづくりに取り組んでいる地元の担い手と協力しながら、北斎の魅力や多彩な江戸文化を楽しめる賑わいのある観光のシンボルストリートとしていきます。

北斎通りには、これまでも江戸に因んだ飲食店、甘味屋、温浴施設などがあります。北斎館建設を機に、江戸や北斎をテーマにしながら、アート系、エンターテインメント系、和風宿泊系をはじめ、来街者を引き寄せる各種の施設・機能の立地を促進し、バザールのような、歩いて楽しい空間づくりに取り組みます。



「北斎祭り・灯りのフェスティバル」



北斎通りの江戸風の店構え

### 3 タワービュー通り

タワーの景観を堪能できる「タワービュー」は墨田区の観光の新しい魅力です。

タワービューを活用し、沿道の地域住民と一体となったまちづくりを進めて、タワービュー軸を形成します。そのために、昼・夜を通じて美しいタワーの景観を楽しむスポット整備を進めるとともに、街歩きをしながらタワービューを鑑賞できるように、新タワーエリアから放射状に伸びる主要道路を「タワービュー通り」として、その歩行空間の整備等を進めます。

#### (1) 沿道・歩行空間の整備

タワーが足元まで見える向島タワー軸の言問通り、桜橋通りは、代表的なタワービュー通りです。また、錦糸町押上軸の四ツ目通り、区道46号線、大横川親水公園沿道なども、通りを歩きながら美しいタワービューを楽しむことができます。これらの通りでは、沿道の地域住民と一体となって歩行空間の整備に取り組みます。

また、来街者が飲食やショッピングなどを楽しむための店舗の出店を促進し、街の賑わいの創出をはかります。



©東武鉄道株式会社 新東京タワー株式会社

#### (2) タワービュー・スポット

交差点の一角など、建物の中から昼・夜を通じて美しいタワービューを楽しむことができるポイントを、タワービュー・スポットとして整備します。

#### (3) 水辺におけるタワービューの活用

北十間川タワー軸では、水辺の親水空間を憩いの場として整備するなど、水辺におけるタワービューを活用した展開を図ります。

## 4 水都すみだ

かつて江戸随一の「水の都」と呼ばれた墨田区は、隅田川に加えて、数多くの内河川が縦横に流れ、豊かな水辺空間に恵まれています。

タワー建設を契機として、これらを存分に活かして、「水都すみだ」の再生をめざします。

### (1) 北十間川水辺空間の整備

タワーエリアに隣接して流れる北十間川では、東武橋・京成橋間に親水空間を整備するとともに、この川に架かる人道橋を整備します。

あわせて、タワー街区の商業施設や広場と連携し、この一帯をタワー観光のシンボリックな水辺空間として整備します。



北十間川水辺空間の整備イメージ

### (2) 水上ネットワーク

北十間川を含む江東内部河川を中心に、観光のための水上ネットワークの定着をはかり来街者の回遊性を高めます。

### (3) 吾妻橋水辺空間の活用

吾妻橋防災船着場を、平常時においても定期観光船が発着できる観光船着場として使用できるよう整備し、回遊性の向上や地域連携を促進します。

また、吾妻橋のゲート性を活用し、親水テラスからうるおい広場にかけてのライ

トアップ、水上ステージを活用した水辺イベントの開催などを通じて、浅草地区からの誘客をはかります。

#### (4) 大横川親水公園の再整備

大横川親水公園は、園路の改修やバリアフリー化、外国語を表記した案内看板等の整備を進め、区民はもとより国内外の来街者が安全・安心に散策を楽しめる歩行空間として整備します。

<p><b>【参考】</b> 関連資料 「北十間川水辺活用構想」(平成 19 年 3 月 墨田区)</p>
---

## 5 i プロジェクト

来街者を歓迎する気持ちが伝わる「**i** プロジェクト」を進めます。

「**i**」は一般的には **information** の意味ですが、ここでは「逢い、愛」の意味を付け加え、来街者との出逢いを大事にするまち、住民が地域を愛する「郷土愛」のまちをめざして、**i**プロジェクトを進めます。

### (1) i スポットの設置

来街者にとってわかりやすい街をめざして、区内の交通要所に観光案内所、簡便な案内機能などを配置し**i**スポットとします。

また、国際基準に沿ったピクトグラム(絵文字)や外国語を併記した案内標識を、体系的に整備します。

**i**スポットは国際的に認識される「インフォメーション・コーナー」の呼称です。



外国語を併記した観光案内板

### (2) 「すみだ街あるき案内処」の拡充

街歩きを楽しんでもらうためにマップやパンフレットを地元ならではの観光情報を添えて提供する「すみだ街あるき案内処」を、民間の店舗や事業所の協力を得て設置しています。今後これを拡充し、区民の「おもてなし」による案内の充実をはかります。



すみだ界隈街あるき案内処



### (3) 観光プラザ（仮称）の開設

タワーエリア内に墨田区の魅力が一目でわかる情報コーナー、下町文化体感コーナー、物販コーナーなどがある区内観光のポータル（玄関）機能を持った「観光プラザ」（仮称）を開設し、区内の観光拠点エリア等への回遊を促します。

### (4) **i** のキャンペーン

区民が来街者への歓迎の気持ちを行動に表すためのキャンペーンを展開します。

また、多くの区民が来街者を案内できるよう、ボランティアガイド養成講座や地域学セミナーを通じて「区民ガイド」のすそ野を広げることで、**i**に満ちたまちをめざします。